

ほっかいどう チャレンジピッチ

in石狩

令和3年度 開催結果

令和3年10月7日に開催されたオンラインイベント「ほっかいどうチャレンジピッチ in石狩」では、石狩管内で地域を盛り上げるために活躍する10名のチャレンジャーが、ショートプレゼン・意見交換を行いました！イベント当日の様子を一部抜粋してお見せします！

★ 開幕 MCトークセッション

当日のMCを務めた**(株)大人の五十嵐**さんと、NPO法人ezorockの**草野**さん。開幕のトークセッションでは、北海道の地域おこしの前衛で活躍するお二人が、これまでの経験や、それぞれの想いについて、熱く語ってくれました！



2016年に店舗のプロデューサー、デザイン、イベント企画を行う「(株)大人」を設立。「北海道移住ドラフト会議」や、北海道の挑戦者を応援するコミュニティ&メディア企画「ほっとけないどう」など、北海道を盛り上げる様々な活動を実施。

株式会社 大人 代表取締役社長
五十嵐 慎一郎(いがらし しんいちろう) 氏



2001年NPO ezorock設立。「RISING SUN ROCK FESTIVAL」における環境対策活動を中心に活動を展開。その後、若者を主体とした地域課題に取り組むプロジェクトを多数創出。これまで延べ2万人を超える若者に対して北海道各地の取組に参加する機会を提供している。

NPO法人 ezorock 代表理事
草野 竹史 氏(くさの たけし) 氏



草野さん

私はNPO法人ezorockという団体の代表をさせていただいています！

25歳で会社を辞め、26歳の時に、「NPO業界とか、環境や持続可能の分野でなんとかメシ食っていききたいなあ…」と思い、後先考えず会社やめちゃった！みたいな(笑)

元々は、石狩市でやってる「RISING SUN ROCK FESTIVAL」という、2日間で6万人くらいが参加する音楽イベントで、その当時は会場がものすごく汚かったので、「せっかく屋外の綺麗な場所で音楽が鳴ってるのに、会場が汚いのはイヤだな…」ということで、若者で立ち上がって活動をスタートしたところから始まります。

活動を始めた当時は僕も若者でしたが、今はもう20年は経ちました。

なので、20代、30代の皆さんが、何かに取り組んでいこうとする時の苦労とか葛藤とか、そういった気持ちはひと通り分かると思います。

草野さんは本当、色々なことをされてますね。

自己紹介スライドの中にも気になるフレーズがめっちゃあります！…巨木ガイド？



五十嵐さん



草野さん

巨木ガイドね(笑)

今日のテーマは移住とか関係人口とかですけど、僕たちの団体の第2拠点として、石狩市の浜益区という人口1200人くらいのところに、一軒家を構えておまして。

そこに、樹齢1500年のイチイの木がありまして。あまり知られていなくて、活用もされていなかったのですが、そこに「巨木とともに人生を歩みたい若者」がいます。

巨木と共に人生を！？（笑）



五十嵐さん



草野さん

いるんですよ、本当に！（笑）
北海道で一番若い樹木医がうちのメンバーにいます。

そいつには「巨木と何かできたらいいな」という夢があって。
石狩市を出入りしていたら、樹齢1500年のイチイの木と出会って。
そこから、冬のスノーシューでのイチイの木のツアーガイドに発展して行って…。

つまり、浜益区に活用されていない魅力的な資源があって、
そこに都市部から若者が入ってきて、地元の人と話し合いながらプログラムができた。

魅力的な場所があって、それに関わりたい若い人たちがいて…。組み合わせて初めて
何か出来るようになる。そういうのが関係人口の面白いところかな、と思ってます。

僕は、生まれが小樽で、小中高と札幌で育って、大学から東京に出たクチなんです
けど、6年前に自分の会社「（株）大人」というのを設立して。

3年前くらいに完全に北海道に戻ってきたんです。



五十嵐さん



草野さん

会社を立ち上げたのは東京なんですか？

そうなんです。立ち上げ当初は東京にいて。
北海道に仕事があった訳ではないんで、縁のあった地域のプロジェクトとかをやり
つつ、仕事を創っていったっていう感じですね。



五十嵐さん

不動産会社に勤めていた時、「銀座でコワーキングスペースを立ち上げる」とい
う新規事業をやらせてもらったんですけど、その経験が今にもつながってます。

自分がコワーキングスペースをやるとなると、同世代で起業しているやつや、
フリーランス、クリエイターのやつらと日々、一緒にいるわけじゃないですか。

自分でリスクを背負って、やりたいこととか社会に必要だと思うことをやっている
やつらと飲みながら、「こんなことしたいよね」と話をするのが楽しくて。

課外活動も増えて行って、北海道の若い世代の経営者ともつながるようになると、
ふと「北海道でチャレンジしてる同世代の人って、少なくね…？」と思って。

確かに、中高で一緒だった元気なやつらって、みんな、北海道を出ちゃってて…。
一緒に飲むと皆、「いつかは北海道に帰りたい」「北海道に貢献したい」と言う
んですけど、それを形にしている人って本当になくて。

「あれ？なんか悔しいな？」って思っている中、パソコン1台で仕事できる時代になってきたりして…。

「それなら北海道でもいろんなチャレンジ出来るじゃんっ！」って思って。

会社員時代になんですけど、札幌移住計画というプロジェクトを立ち上げて、札幌のベンチャーの人たちと一緒に、札幌の今のビジネスシーンを発信していこうぜ！っていう活動を始めた感じですね。



五十嵐さん



草野さん

なんでこんなことやってるの？とか、その原動力どこからくるの？っていう話を、今日、五十嵐さんに聞きたいなって思ってたんですけど…

小さい頃の「今日何して遊ぶ？」「誰々と遊ぼうよ」「こんなことしようぜ！」っていう、その延長線上にいる感じが近くて。

自分や友達が、どうやったら面白く遊べるかな？過ごせるかな？みたいな。その範囲がだんだん広がって行って、会社だったりグループだったり地域だったり…っていう感じなんですよ。



五十嵐さん



草野さん

僕は時々、「10年先をイメージしてたんですか？」「そうなることを予測してたんですか？」とか聞かれたりするんですけど、そんなことはないですよ（笑）

いや、ムリムリ。無理ですよ（笑）

ぼんやりと、「こんなことをやりたい」とか「こうあったらいいな」とか、きっと皆それぞれあるとは思いますが、目の前のことで精一杯ですよ。



五十嵐さん



草野さん

今日プレゼンをされる皆さんも、「今」の話をしていただいて、「次どうしたら良いかな」って、一緒に考えていくぐらいしかないのかなっていう。

今まで僕はそうやって生きてきましたよ（笑）

とりあえず、目の前のことを思い切りやって、そこがどこかにつながっているっていう感じでもんね。色々なタイプがいるとは思いますが。



五十嵐さん

以上、約30分間のMCトークセッションの内容を一部切り抜いてご紹介しました。

他にも、お二人が活動の中で感じてきたことその他、視聴者からの質問への回答など、笑いも交えながら、沢山のトークが交わされました！

★ メインイベント プレゼンテーション

イベントのメインは、石狩管内の市町村で地域を盛り上げるために活動している「地域づくりチャレンジャー」達による、ショートプレゼン&意見交換です。当日は、5名の方がプレゼンターとして参加、そして5名の方が意見交換に参加し、計10名の方が交流しました。

プレゼンター No1 江別市 NPO法人みなと計画



深井 咲良（ふかい さくら）さん

遠軽町出身。NPO法人みなと計画にて、江別の大学生を対象とした関係人口創出プロジェクト「EBETSUto」、ユースチーム「BLUE-D-DAY」のコーディネーターを務める。

テーマ：若い世代が地域で望むキャリアを実現するための支援について



深井さん

「できない」ことを、「地方だから」と言いたくない！思いたくない！という気持ちを持っています。

今日は、このまちにいる人や、特に若い人が、どこでもない「ここ」で自分の思いを大切にしながら生きていくために、出来ることをやろう！という気持ちでやっていることを紹介させてください！

そう語ってくれた深井さんは、学生がやりたいことを地域の中で実現していくプロジェクト「EBETSUto」や、多様な地域・分野・年齢のユース達が集まる交流イベント「BLUE-D-DAY」など、若者の「やってみたい」を応援するための自身の活動について紹介してくれました。

プレゼンター No2 任意団体 イロイロリビング



坪田 佳之（つぼた よしゆき）さん

2011年4月に千歳市役所入庁。公務員として勤務しながら、プライベートの活動として千歳中心市街地の空きテナントを借り上げ、「みんなでつくるまちのリビングイロイロリビング」の運営をスタート。

テーマ：コミュニティの力で、千歳のまちをオモシロくしたい！



坪田さん

イロイロリビングって何なの？って聞かれたら、最近は、「シェアリビングですよ」という風に答えています。

ここに来てくれる人たちが自分のやりたいことを形にできる場所で、リビングなので、くつろぎながら緩くつながれる場所になったらいいなと思って運営しています！

公務員として勤務する一方で、自己負担で商店街のテナントを借り上げ、シェアリビング「イロイロリビング」の運営を開始した坪田さん。プレゼンでは、運営を始めたきっかけや、自身が活動に抱く想い、そして目指しているものについて、お話していただきました。

プレゼンター No3 恵庭市 えにわ若者応援プロジェクト

山本 直弥（やまもと なおや）さん



「えにわ若者応援プロジェクト」の実行委員会メンバーとして活動。長引く新型コロナウイルスの影響で困窮している学生や若者に対する支援や、相談対応などのサポートを実施。

テーマ：地域活動と関わってみて



山本さん

支援される側だった僕が支援する側に立った原点は、「人とのつながりが思い白い!」と感じた瞬間でした!

大人達が楽しそうに活動しているのを見て、「こんな楽しそうなことしてずるい!」「僕もしたい!」と思って、一歩飛び込んだのが、気づけば2歩、3歩と駆け足で進んで、今は支援する側に立たせていただいています!

「えにわ若者応援プロジェクト」にて、自らも支援対象の大学生でありながら、地域の若者を支援する活動に参加する山本さんは、活動の中で出会った出来事や、自身が支援される側から支援を行う側に転じたきっかけについて、プレゼンの中で語ってくれました。

プレゼンター No4 北広島市 「きたひろT.V」、「北広島市ボールパーク推進期成会」

池田 和也（いけだ かずや）さん



市の魅力を映像で紹介する取組み「きたひろT.V」リポーターとして活動。また、北広島市ボールパーク推進期成会にて、ボールパーク開業に向けて、地域を盛り上げるイベント等の運営や情報発信を実施。

テーマ：ボールパーク開業に向けて北広島市を盛り上げる活動と情報発信



池田さん

日本ハムファイターズの本拠地移転をきっかけに引っ越した北広島市で、YouTubeチャンネル「きたひろT.V」と出会い、手伝わせていただくことに。

プロ野球ファン以外にも、北広島市民はもちろんのこと、ボールパークや北広島市の魅力を全道の方に伝えられるように、イベント開催や情報発信を続けていきたいなと思っています!

「きたひろT.V」リポーターとして、2023年に北広島市にて開業予定の北海道ボールパークFビレッジに関わる動画での情報発信に参加し、地域を盛り上げる池田さん。ボールパーク開業という一大イベントと併せて、自身が北広島市を盛り上げるために行っているさまざまな取組について、お話していただきました。

プレゼンター No5 石狩市「株式会社 イシカン」、「有限会社 鈴木技研工業」
鈴木 圭一（すずき けいいち） さん



缶詰工場発祥の地である石狩にて、缶詰をきっかけに地域を盛り上げることを目的に株式会社イシカンを設立。将来は、石狩市に缶詰工場を作り、一次産業との連携による地域振興を目指す。

テーマ：缶詰で地域振興！地域ブランド化を目指して！！



鈴木さん

2019年に石狩青年会議所の事業として企画し、地域のお祭りで販売した「イシカリー」。この事業を継続させたいと思い、株式会社イシカンを設立しました。

今後は、一次産業と連携して、多くの缶詰を作っていく、石狩市を缶詰工場発祥の街から、缶詰であふれる街にするのが目標の一つです！

地域の食材を使った缶詰カレー「イシカリー」を販売する（株）イシカンの鈴木さんは、会社を設立するまでの経緯や、缶詰を使ったまちおこしを通して、将来的に目指す姿や今後の目標について、自身の想いを語ってくれました。

MCのお二人の軽快な掛け合いのもと、プレゼンの感想や意見交換による参加者達の交流が行われ、充実した内容となった令和3年度の「**ほっかいどうチャレンジピッチ in石狩**」。

ご紹介した内容の他にもたくさんの見どころがありますので、ご興味がある方はぜひ、**公式HPにあるYouTubeのリンクにて、本編のアーカイブ**をご覧ください！

「ほっかいどうチャレンジピッチ in石狩」は **コチラ** から！

★北海道石狩振興局公式HP

<https://www.ishikari.pref.hokkaido.lg.jp/ts/tss/challengerishikari.html>

QRコードをCHECK!

